

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0195700083, クリーンハウス株式会社, グループホーム たんぼぼ岩見沢館, 岩見沢市6条西13丁目38-4, 平成30年1月5日, 平成30年2月21日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0195700083-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 株式会社 マルシェ研究所, 札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2, 平成30年2月8日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者の外出は自由で、その時の状況で行きたいところに行けるよう管理者は職員に一定の裁量を任せています。利用者一人ひとりが自分の役割を持ちながら、職員と共に楽しく生活が送れるよう、又グループホームを施設ではなく、生活の場として生活を続けられるよう支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぼぼ岩見沢館は、訪問介護事業所や通所介護事業所、居宅介護支援事業所、サービス付き高齢者向け住宅とともに「いこいの里」と名付けられた敷地内にあります。法人共通の理念「一人一人の想いを大切にその人らしい生活を支援します。住み慣れた地域とのつながりを大切にします・・・」のもと、隣接する系列事業所と連携しながら高齢者支援に取り組んでいます。職員は新人研修や日々の業務の中で先輩職員からの指導を受け、理念に沿った接遇や基本となる介護知識を学んでいます。また、利用者の思いを把握し、業務に流されるのではなく高齢者の豊かで自由な生活の実現に向けて全職員が日々取り組んでいます。5事業所合同の「いこいの里」秋祭りには多くの地域住民の参加や市の職員の協力があります。利用者は地域の様々な人と交流する機会があり、地域の一員として受け入れられています。事業所では、地域とのつながりだけでなく、離れて暮らす家族との絆も大切にしています。家族が来訪した際には日々の生活の様子を話したり家族からの要望などを聞くようにし、些細なことで連絡ノートに記入して情報を共有し要望は会議で話し合い運営に反映しています。毎月発行の事業所便りや受診や日々の生活状況を記した報告書を郵送しています。利用者と職員は常に笑顔でゆったり、のんびりと穏やかに住み慣れた地域で家族とのつながりも大切にしながら生活をしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつくところに理念を掲示している。方向性を明確に示した理念を共有し、研修、職員会議で理念を振り返り、理念を理解し実践につなげるようにしている。	3項目からなる法人共通の介護理念を、事業所内やパンフレットに掲示しています。日々の申し送りや月一度の職員会議や研修会などで理念を共有し、日常業務で実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、敬老会、秋祭り、RUN伴などに地域の方に参加していただいたり、資源ごみを出したり、ごみステーションの掃除をしている。散歩のさいには、近所の方と挨拶をしたり、お花を頂いたして日常的に交流している。	日常の挨拶をはじめ、地域の一員として町内会行事の参加をしています。子供神輿が訪れたり、ゴミステーション清掃を利用者で行っています。RUN伴や5事業所合同の「いこいの里秋祭り」には、多くの地域住民の参加を得ています。また地域からの介護に関する相談など、日常的に相互交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に行事に参加し、理解を得られるように取り組んでいます。又RUN伴に地域の方々に参加していただき、認知症の人の理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、岩見沢市役所介護保険課、地域包括支援センター、町内会役員、利用者家族に参加していただき、運営状況や施設での取り組みについて報告し、意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員に加え、季節行事と合わせ行う際には多数の家族が参加し、事業所の状況や行事報告、災害時の対応などについて、話し合っています。議事録も事業所内に掲示し、家族にも郵送して会議内容の周知に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、避難訓練、敬老会、施設の秋祭りなどに参加していただき、メールで毎月の入居状況の報告や、たんぽぽ通信を届けて、施設の活動の取り組みについて伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は、定期的な書類提出時に、市担当者や近況などを話す機会を設けています。事業所の行事にも、参加協力を得ており、連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で身体拘束・虐待防止委員会を設置し、職員が禁止となる行為を正しく理解するために研修をしており、入社した職員は外部の虐待防止研修会に参加し具体的な行為を、正しく理解できるよう取り組んでいます。	身体拘束・虐待防止委員会があり、不適切な対応について、具体例に基づいたマニュアルを整備しています。研修会や職員会議を通じ、周知徹底を図り、職員同士が意識を持って言葉かけにも注意を払いながら、職員が目配り気配りで日々拘束をしないケアの実践に努めています。玄関の施錠は夜間のみとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設内研修、職員会議等で管理者や、職員が学ぶ機会を持ち、虐待が起きないように話し合い、自身のケアについて振り返り、ストレスチェックを行ったりして防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修はしていない。今後研修する機会があれば学んで行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、利用者家族に見学して頂き、管理者、ケアマネが利用者家族から不安や疑問について尋ね、十分な説明を行い納得していただいで入居契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と良好な関係を築けるよう、家族が来訪した際には、家族から意見や要望を聞いている。家族からの意見や要望は、連絡ノートで情報を共有するとともに、職員会議で話し合いがもたれ、運営に反映させている。意見箱も設置している。	家族来訪時に、利用者の日々の状況を説明し、要望や意見を聞いています。細やかな事でも連絡ノートに記載し、情報を共有するとともに、意見や要望は職員会議で協議し、運営に活かしています。また、毎月家族宛てに事業所だよりと利用者生活報告書を郵送しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と積極的にコミュニケーションをとり、意見を提案しやすい環境づくりに努めている。又職員会議等での意見や、提案を聞き反映させるよう努めている。	職員と管理者は、日ごろから話しやすい環境にあり、会議でも意見や要望を聞く機会を設けています。職員は、毎年業務の自己チェックシートを作成し、管理者との面談を行い、自身の目標設定を行いスキルアップを図っています。また事業所は、外部研修参加や資格習得を支援する制度も設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員個々の能力に合わせて、外部研修を受ける機会の確保や、働きながら資格取得を支援する制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新設するグループホームの職員の実習を受け入れたり、管理者とケアマネが定期的に地域のグループホームと交流し、相互の活動の様子の情報交換を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者とケアマネが利用者にあセスメントを行い、入所後は本人との対話の中で、信頼関係を深め要望等に耳を傾けながら、安心と信頼関係に向けた関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、管理者ケアマネが家族と話し合いをし、家族からの視点での考えをしっかりと聞き取り、不安や、要望についての話し合いを行い、施設でのケアの方針を話し合いながら、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者ケアマネが、本人家族と話し合い、必要とする支援を把握し、暫定ケアプランを作り、家族と相談しながら必要な支援をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の想いを実現できるよう、出来ることを一緒にして行く中で、共に過ごし支え合い、感謝の念を持てるよう信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した際には、居室でゆっくりと過ごしていただき、日常の様子や、健康状態を報告し、家族の気持ちに寄り添いながら、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来訪された際は、居室でゆっくり過ごしていただき、関係が途切れないよう支援している。又本人の意思を尊重しながら、手紙を出したり、電話をかけたりにしている。	利用者と家族の希望に応じ、馴染みの美容室を利用したり、家族と一緒に墓参りにも出かけています。買い物時に、知人に会い、挨拶や会話を楽しむなど、これまでの繋がりを大切にしたい支援を心がけています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係を築けるよう職員が関わりながら、トランプ、カルタ、散歩等孤立せず、利用者同士が係わり合い、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても必要に応じて相談があれば支援に努めて行きたい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の気持ちをくみとれるような関係づくりに努め、希望や、意見の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、話し合いをしアセスメントシート、連絡ノートで情報を共有し、寄り添ったケアが出来るよう努めている。	日々の関わりの中で会話や表情から利用者の思いや意向を把握し、連絡ノートに記載して情報を共有しながら、その人らしい生活ができるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族本人、関係機関の情報で、これまでの経過の把握をすると共に、生活歴や、馴染の暮らし方等を把握し、インフォメーションシートをファイルし、アセスメントシート等でこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常について、支援経過記録や、アセスメントシートに記録し、職員同士で話し合いながら、情報を共有し現状の出来ること、出来ないことの把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の様子は、モニタリング、家族の意見を聞いて、職員会議で話し合われる。管理者は、家族とその都度、連絡、相談、報告をし、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員を定め、モニタリングを行っています。利用者、家族の意見を聞き、職員会議で話し合い、介護計画を作成し、家族に説明しています。個別の支援経過記録には、目標に対する実施状況が詳細に記載されています。3か月毎の見直しと、変化があった際の身体状況に即した計画作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に支援経過記録、アセスメントシート、医療ノートに記録し、日々の様子を職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、日々生まれる様々な事柄に対して、その時々職員が話し合いをし柔軟な対応をしている。家族への説明や相談が必要なときは、その都度家族に同意を得ながら、柔軟な支援に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に行ったり、散歩、ドライブ、外食、買い物等本人の希望を聞きながら、暮らしを楽しむことができるように支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を踏まえ入所前から利用している病院に職員対応で受診している。重度化した利用者は通院が困難になる前に家族と相談し、適切な医療が受けられる病院に転院し、通院が困難になった場合は往診していただいている。	入居前からのかかりつけ医や他科への受診には、利用者や家族の希望に応じ、職員が同行対応し、医療ノートに詳細を記載し、家族に報告書で知らせています。また週1回非常勤看護師の健康チェックがあり、医療の相談や指示を受け、利用者や家族の安心に繋がっています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な身体変化については、医療ノート、看護記録で情報を共有し、非常勤看護師に報告、相談し指示を受け支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族と同席し説明を受けている。家族の希望と本人の様子を報告し、早期に退院できるように施設の意向も聞いてもらい、病院と情報交換や相談を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の施設の介護方針を説明し同意を得ている。管理者は、家族に終末期や重度化に対する希望や考えを聞き、事業所で出来ることを説明しながら方針を共有し、重度化した場合は主治医に相談しチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「利用者の重度化、看取り介護にかかわる指針」を説明し、同意を得ています。同意書には、それぞれ各職種の役割が詳細に書かれており、家族、医師、職員が方針を共有し、支援に取り組んでいます。職員は、訪問医師から「看取りについて」の内部研修を受けています。すでに看取りも経験しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルを作成し、緊急時の研修もしていますが、全ての職員が定期的に訓練を行うことは出来てないため、定期的に訓練し、実践力を身に付ける必要がある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年火災訓練は市職員参加で隣接する施設と合同で2回行っています。災害訓練は行っていませんが、研修で災害時の話し合いをしたり、備品、備蓄等の備えをしています。近隣の施設と災害時の協力体制に関する協定書を取り交わし連携を体制を築いています。	年2回、5月と10月に敷地内に隣接している系列事業所と合同で消防署立会いの下に、火災訓練を実施しています。災害については、運営推進会議でも議題に取り上げています。空知の4グループホームと協力体制に関する協定を交わしています。備蓄品や備品も備えています。	今後予期せぬ災害を考慮し様々な場面想定や地域住民を含めた訓練も検討しながら、職員、利用者のスムーズな行動に繋げることを期待します。また事業所の避難場所について家族に周知徹底を図ると共に、職員の救急救命訓練の受講も期待します。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、敬意を持った対応と関わりが出来るように努めています。共に暮らす中で親しげな言葉になる事もあるため、今後も職員会議や、研修を通して、言葉かけや対応を学んでいきたい。	職員は、新人研修や毎日の業務の中で、接遇や基本となる知識を身に付けており、利用者に向けた居心地の良い言葉かけや対応をしています。個人情報やプライバシー保護の取り扱いの文書も明示しています。書類等も事務所に適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的な決めつけがないよう、本人の意思表示がしやすい関係を作りながら、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の都合を優先してしまうことも多々ありますが、おおまかな生活のペースがあり、出来るだけ本人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、身だしなみを整えたり、本人の好みを把握し、おしゃれが出来るよう支援している。又女性利用者は、誕生日や、外出の際ににお職員と一緒に化粧をしたり、洋服を選んだり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食材を切ったり、味見をしてもらったり、食事前の準備、片付け、食器拭きを利用者の出来ることを把握し、負担にならない様になっている。又食事のときは音楽をかけて、ゆっくりと食事が楽しめるようにしている。	日常の食事や行事食は、職員が利用者の嗜好を考慮して作成しています。職員は利用者と一緒に買い物へ行ったり、食事の準備や片づけなど出来る範囲で一緒にしています。また外食や出前等、食事に変化もあり、利用者は職員と一緒に、ゆっくりと食事の時間を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、排泄や食事のチェックシートを用いて一人ひとりの状態を把握して支援している。栄養面だけにとらわれずに、楽しみながら必要なものが確保できるよう、個々にあわせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、本人の出来ることをしてもらい、習慣になるようにしている。介助が必要な利用者には、職員介助で口腔ケアを行っている。自身の歯がある利用者は、定期的に歯科医で口腔ケアをして、清潔保持を保つよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常的に排泄チェックシートを用い、利用者の排泄間隔を記録し、職員が情報を共有することで、利用者一人ひとりに合わせたトイレの声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄の自立のに向けた支援を行っている。	入居者の半分は自立していますが、必要に応じて、利用者の排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮し、ほかの利用者にわからないような声掛けや誘導を行い、できる限りトイレでの自立排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、排泄チェックシートを用い、水分量や食事に注意し、食事では、果物、ヨーグルト、野菜など個々に応じた予防に取り組んでいます。毎日体操など体を動かすよう取り組んでいますが、便秘が続くときは、看護師に相談し下剤で調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	日曜日以外は入浴が出来、利用者個々の希望にあわせて、入浴剤を入れたりして、入浴を楽しめるよう支援している。利用者の状態に合わせて、洗身が出来ないところは職員が支援し、プライバシーに配慮しながら、声かけや見守りをしている。	午後の時間帯で、毎日入浴することができます。利用者の希望や体調に合わせて、週に2～3回入浴しています。以前は入浴拒否の利用者もいましたが、職員の工夫で、現在は全員入浴しています。浴室は明るく、浴槽も広く、ゆったりと入浴できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は、その日の状態に応じて自由に居室で休まれたり、リビングのソファでうたた寝をしたり、無理なく休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に、薬剤情報をファイルしており、常に職員が確認できるようにしている。服薬が変わったさい、服薬後の症状の変化は、日常的に医療ノート、業務日報等に記録し、医師に相談している。誤薬がおきないようにチェックシートを使用し確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴から好みを把握し、日常の生活で喜び、張り合いが生まれるよう、職員と一緒に施設内の掃除、調理又散歩、外食、トランプやカルタ、季節に合わせた行事などの支援をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者との外出は常に自由で、希望に沿って外出できるよう支援しています。日常的に散歩、地域の季節のイベントや、花見、外食、普段行けない千歳水族館、木下サーカスなど遠出したり、年末には居酒屋の協力で毎年利用者、職員合同忘年会を行っている。	年間を通して外出行事が多くあります。また、その日に利用者と職員が外出先を決めて出掛けるなど積極的に支援しています。近隣の散歩をはじめ、花見、紅葉狩り、リンゴ狩りなど、全利用者と職員の大忘年会等、利用者は職員と一緒に楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しくなっていますが、本人の要望、家族の希望で小額のお金を持っている利用者もいます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望があればいつでも電話をかけたり、手紙のやり取りができるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は快適な生活環境となるよう、適度な装飾、調度品を飾り、整理、整頓し居心地よく過ごせるよう配慮している。又お花を飾ったり、季節ごとに飾りを変え季節を感じることができるよう工夫している。	共用空間は明るく、広く、ゆったりとしています。大きなソファもあり、利用者が寛いでいます。季節行事の雛壇もユニット毎に飾られています。台所は対面で、回遊式になっており、利用者の様子が分かるようになっています。壁には行事の写真や作品が飾られ、岩見沢の昔懐かしい地図も貼られています。長い廊下には、隠れた部分に車いすを置くスペースや収納庫があり、使いやすいように工夫されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は、リビングや、食堂の思い思いの場所で、お喋りをしたり、テレビを見たりして、居心地がいいと思えるように工夫している。仲の良い利用者同士の居室でお喋りをしたりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用者と家族に、居室で使うものは自宅で作っているものを持ってきていただくようお願いしています。仏壇や、亡くなられた方の写真に、毎朝ご飯をお供えしたり、お花や、自身、家族の写真を飾るなどして居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は利用者と家族が相談し、ベッドや家具など利用者の馴染みの物を持ち込み、使いやすく配置しています。大きなクローゼットには、まごましたものも収納できるため、すっきりとした居室になっています。壁にはカレンダーや寄せ書き、写真が貼られています。利用者が、ゆっくり落ち着ける居心地の良い居室になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりが設置してあります。トイレの目印を付けわかりやすくしたり、歩行が不安定な利用者にも手すりを使い、職員見守りで自立した生活が送れるように工夫している。			